

靴の歴史散歩 ⑦③

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

第三章 足の生理的考察は〈陸軍被服本
廠養成部^{しょうへんさん}編纂『製靴原理』より多くを引用〉
と但し書きがあるので、この項に関しては、
陸軍被服本廠の製靴原理（未確認資料）を
参考引用したことが分かる。

『製靴読本』の編纂に当って、先進ヨー
ロッパの製靴教本を、かなりな部分、参考
にしていたことが、今回初めて検証できた
ので、これを機にその事にも触れておきた
い。

製靴読本を見るたびに、これと似たよう
な写真や図版をどこかで見たような、そんな
漠然とした思いが、ずうっと胸の内にな
ったから、その胸のつかえが下りたよう
でうれしい。たどり着いたのは、1905年
（明治38年）ロンドンで発行された
『BOOT & SHOE』であった。

この洋書と製靴読本を見比べてみると、
以下のところでこの洋書を参考に行っている
ことが分かった。

製靴読本の28頁と29頁の足型計測の写
真。

50頁と51頁の皮革の部位による特性の



『BOOT & SHOE』（1905年発行）

図版。

56頁と57頁の甲革の裁断・型入れ法の
図版。

73頁と74頁の木型の修正の写真。

76頁の木型の原型図版。

さて、下の写真は右が『製靴読本』、左
が『BOOT & SHOE』で、それぞれ木型
修正の項の個所である。左の写真中央の横
向き木型3点をカットし、真上からの木型
5点全てを、右の製靴読本に天地を逆にし
て転載しているのが確認できるかと思う。

営利目的のない組合頒布の出版物とはい
え、昭和10年の古いことながら、著作権処理
がどうなっていたのか、気に掛かる。

『BOOT & SHOE』は、現在皮革技術
センター台東支所の書庫に収蔵されてい
る。なにぶんにも100年前の貴重古書だか
ら、貸し出しは無理かと思うが、閲覧は可
能だから、100年前のイギリスにどんな製
靴機械が開発されていたのか、美しい精緻
な図版を見るだけでも、一見の価値ありな
のでお勧めしたい。



『製靴読本』（昭和10年発行）